

## 市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和6年9月12日 中津南地区区長会

### 開会

#### 市長

この対話集会は、市民の皆さんの声を聞きたいと、4月からスタートして今日で17回目になる。市内各地でお声がけいただき、区長会、いろいろな団体の皆さんと開催してきた。

市政懇のように一方的にその要望を聞く形ではなく、テーマを決めて皆さんと意見交換をする中で、市政に反映させていくことを進めていきたい。日頃、市民の皆さんがどんなことで悩まれているかということもお聞きしながら、何か解決策を見つけられればと考えている。今日はよろしくお願ひします。

#### 代表 あいさつ

南地区も、本町から、恵下の徳原まで、非常にいろいろな地域がある。今回、高齢化に対応した地域づくりというテーマは設けているが、共通しているところとそれぞれ各地域で違うところもあり、いろいろな声を聞いていただいて、中津南地区の実情や課題をつかんでいただきたい。よろしくお願ひします。

#### 参加者

今から何十年か前に戸数が大きく増えたので区を東西2つに分けたらしいが、今となつては、各100戸程度で、高齢化と出生率低下により子どもも少なくなつて、空き家が多くなつている。南小学校の辺りだけは子どもが増えたが、住んでいた人が郊外に出たり、転居したりして、その空き家を壊して新しい家ができて、そこで生まれた子ども達が増えつてきていると分析している。

高齢化で定年年齢が上がり、次の世代の役員を決めるにも困っている。自分たちでも対策を考えているが、なかなか思いつかない。何かいい方法がないかと思っている。

#### 参加者

南北に800メートル、東西に300メートルの中に101世帯で、人数は264人。比較的小さな区の中で、65歳以上の占める割合が35%。中学生以下は10%。面積あたりでいうと65歳以上は5.4㎡に1人、中学生以下は18.1㎡に1人で、高齢者が非常に多い。

ここは比較的医院や市役所、駅へは何か歩いて行けるくらいのところだが、年を取つて免許返上する人が増えると、市民病院には徒歩では行けない。年寄りの足の確保が必要になる時期がすぐに来るが、区だけではなんともできないので、コミュニティーバスの運行とか、何かしていただけないかと思っている。

#### 参加者

高齢化が課題だが、大きな問題は古い家が多いこと。年寄りばかりで若い世代と同居する世帯が少なく、高齢者だけが残つてしまう。広げる土地がない、古い長屋も多くて隣とつながっているのが壊すのも難しく、どうしても子どもたちが出ていってしまう。まちに住んで働く人を増やす方策を一生懸命考えたこともあったが、同居できないといった大きな問題があつて、どうしようもない。

高齢者の方々がコロナ禍を経て孤独になつていて、外の人たちと積極的に交流する習慣があまりなく、うちの中でテレビを見て過ごす方が多い。区としては、そういった方に出て来ていただき、交流してもらいたいと、高齢者サロンをようやく昨年からはじめた。ひと・まち

テラスで中津川市の古い町並みの映像を見せたら、高齢者の方々がみんなすごく喜んで見た、思い出を語ったと聞いたので、そのようなことを今考えてやろうとしている。

## 市長

今お話しされた内容は市内のどこの地区も抱えている。地域の区長などの後任も、高齢化で、働く年齢も上がってきて、65歳、70歳が80歳超えてもまだ働いてみえる方もいる。地域の役をやっていただく方はどんどん年齢が上がってしまうのは共通の悩み。

解決策がないのが実情だが、何かしなくてはいけない中で、市役所から区にお願いしている役職をなんとか減らしていけないかと思っている。いろんな委員会のやり方を変えたら、実働の負担を軽減できないかなど、考え直さなければいけないと思って進めている。

子どもが少なくなってきたという話だが、「ぎおんぼ」はできているのか教えてほしい。

## 参加者

うちの区は、外孫とかも含めて25人。2日間の初日は25人で、2日目が19人と、とても寂しい。

## 参加者

うちは39人で、中学生が11人。「ぎおんぼ」のない区から応援隊を3人借りた。あまりに暑いので、一日目は2回やって、次の日は半日でやめた。

## 参加者

移住して5年の私が区長になるほど、人がいない。区長や役職の後任を選ぼうとすると、同じ年齢の人でもできる、できないが出てきて、交代できず、役職に就く期間が長くなる。役職は2年としているが、次は誰がやるのかが問題になる。

中津川市への移住を決めたのは息子だが、インフラが整っていて便利で、年を取っても何とか生活できる場所で、良い空き家があった。転入したい魅力があるが、区も行政も含めて、情報公開ができて、良い例をうまく活用できているのかが疑問だ。

例えば、独居の高齢者が亡くなった後の空き家の対策として、リフォームして、魅力ある住宅があるという情報を活用し、転入者が増えれば子どもや若い人が増えるのではないかな。リフォームの援助、情報交換などを考えていただければと思う。

## 参加者

うちの区は大変広く、戸数は少なく、亡くなる高齢者も多い。後継者がおらず、田んぼも減って、過疎化も問題。荒れ放題で、熊が出るし、イノシシが群れでうろうろしており、猟友会に駆除をお願いしている現状。戦前戦後は中津川市の台所としてイノシシ猟をし、その後お茶栽培もやってきたが今では荒れ放題。

夢の話だが、昨年くらいから観光栗園が黒字化してきたので、観光栗園を拡大してもらいたい。高齢者の方の雇用も増える。市が市民に貸し出している土地も荒れ放題で、イノシシなど獣も出るので、そこへ広げて大きくする。農地も含めて10ヘクタール以上あると国の補助金があるので有効活用していきたい。農道が整備されて、スマートインターの神坂とつながっていけばおもしろい展開になっていくのではないかな。

また、獣の行動範囲が広くなり子どもが学校に通うのも怖い。親や祖父母が子どもたちの送迎をする負担も少しずつ減らす方策があればいいと思う。ぜひとも地元の獣害対策を踏まえて一度考えていただきたい。

## 参加者

高齢者のサロンを月一やっているが、スタッフが70代80代で、老老介護ではなくて、本当に80代の方がもう少し若い人のご飯を作ってあげており、年寄りには元気だと感じている。それに対して子育て世代は非常に元気がない。区として子育て世代のネットワークがない。子育て世代をどう元気にさせて、少しでもその働く力を区に貸してもらうにはどうしたらいいか、難しい問題。

市長の言っている切れ目のない子育て支援、例えば、医療費が18歳まで無料、3歳以上児の園児の給食無料化などをやっていくことによって、子育て世代がもっと元気になるのではと思う。

1つお願いがあるが、区長に市の各部からいろんな依頼が来て、受け皿は1個しかないの、あふれてしまう。今、各課が何か新しいことをやる時は区長に頼む形になってないか、考えてほしい。

もう1点、保育の問題で、2人目の子どもができて育休を取ると、上の子は保育園を退園しなければならない\*が、子育て世代に温かい市を作るなら、そこは何かならないか。

(※補足：現在、いわゆる育休退園はないよう対応済み)

## 市長

阿木、加子母、川上などに移住、転入をされた20代、30代の方が、もっと若者を呼び込もうと、若者発信で企画する動きがある。中津地区に移住、転入してきている方は多いと思うが、あまりそういう話は聞かないし、知らない。転入者の情報の共有、情報発信が出来ていない、空き家対策にもつながってくるので、なにかできないか市でも話しているところ。

定住には仕事と住むところの二つが必須。住むところについては、空き家バンクでも賃貸物件が基本的に少ない。空き家をリフォーム、リノベーションした賃貸物件があれば、そこに転入してくる方は比較的若い方が多いと想像する。そうすると若い方、人口も増えていく。各地区で一生涯懸命やっている皆さんをまず連携させ、市内に広げていくことができると新しい動きが出てくると思っている。

交通の問題はどこの地区でも話題になり、特に高齢者、免許返上された高齢者の交通手段がないという話が多い。南地区は30分以内でタクシーを呼べる範囲で、路線バスが通っている、コミュニティバスを走らせることができない。今は地域のボランティアで、乗り合いで助けあいながらやっていると思う。

切実な願いだと重々承知しているし、国も交通空白地帯の対策に動いているが、まだまだのようだ。いわゆる公共ライドシェアで、地域の皆さんで運営し、100円、200円での乗り合いをやっている例もある。広めていけないのか、何かいい手立てはないかと、皆さんとも今後、考えていきたい。

区長にいろんな課から依頼することについては、確認しておく。

## 参加者

困っているのは空き家が増えていることと、コロナでやめていた行事を再開しようと思っても、動かないことが日常になってしまって、なかなか再開できないこと。寂しいと思っても、当事者がやる気になってくれないと難しい。来年はもう少し最初に声掛けをして、今年より活発にできないかと思っている。

## 参加者

高齢化率は32.5%、中学生以下が13.5%という現状。2年前に、80歳以上の方と、70歳

以上、ひとり暮らしの方、及び空き家情報、町内会長と民生委員等で拡大した住宅地図でマーク付けをした。50戸単位で支えあいマップをつくった。

老人会では、毎年、会員が作った雑巾を、南小学校へ寄贈。今年も6月27日に108枚寄贈した。偶数月の第2火曜日に資源回収を行い約1回で2トンの実績。

また、近年の異常気象で1時間雨量が60ミリになった場合、四ツ目川の幅員と、中津川の幅員は全然違うが、洪水の危険水位が2.1メートルで同じ。ハザードマップでは地区の約3分の2以上がイエローゾーン。また、震度5以上の地震が発生して災害が起こった場合、南地区では、川上の楽生館、第一中学校、南小学校、第二中学校の4カ所の避難所が開設される。避難所運営マニュアルをそれぞれ作成しているが、第二中学校と南小学校は小学校の学区が分かれているので災害時に収拾がつかない。区長が責任者で、どうやって安否確認するのかを考え、4年前に各家庭にアンケートを取り、避難先名簿を作った。これはそれぞれ町内会長、まとめ役の方には全部毎年これを作ってもらっている。

## 参加者

区全体では高齢化率は32.8%。住宅が毎年10軒くらいずつ増えている町内会もある。アパートは区に入っていない住民が大半だが、子どもがいると子ども会に入るので区に入る。今年の「ぎおんば」は、子どもが100人、小さい子の親が約50人、役員が約30人で、200人弱が参加。毎年うまくやってくれていて、子どもたちも喜んで、中学生はリーダーシップをとって下の子の面倒みてくれている。

いきいきサロン、健康体操、敬老会もあるが、高齢化で、区でタクシーを手配して送迎する話が出ている。タクシーで乗り合わせるのも難しいし、かといって、個人の方が他の高齢者の方を乗せて事故にあったら大変なことになる。

高齢者の事故が多いということで、運転免許証を返納される方も多くて、足が困る、買い物に困る。移動販売車は若い方が利用しているが、年寄りの方は一定の場所まで行くのが大変なようでそれほど利用していない。

定年が65歳になり、65歳から75歳までの大半の人が仕事をしていて、区の役の後継者を探すのは大変で、非常に困っている。

新しく家を建てて夫婦で入ってくる人もいるが、子どもをつくらない家庭も多い。子どもが少なくなっていくてしまうと心配される。

## 市長

高齢者の方が増えて、活躍の場を作っていかなければいけない。公約で健康寿命を延ばそうと掲げているが、就任7カ月で、まだ手が打てていないので、これから何ができるか考えていきたい。集まって何かやることを好まれる方もいれば苦手な方もいる。市として何か発信ができないかと思っている。

ハザードマップ自体は県との関係で市が変更することはできない。中津川市は防災士の資格を取っていただいた方が他市と比べても格段に多い。防災士の方にも入っていただきながら、地域の自主防災会が動きやすくなるよう取り組みをしようとしているところ。連携をとりながら、引き続き取り組みたい。

## 参加者

防災士会に入っていた際に、連絡網を作るために南地区の防災士の名前を覚えてもらいたかったが、市からは個人情報で教えられないとの回答だった。今回それぞれの地域で、防災

士の名簿を作ってくださいという話がきたが、まだこれから作る場所があるのと感じた。

### 参加者

ハザードマップではすべて外れているが、町内会に、防災士を置くことを目標として、すでに頼んでいる。区から選出して、どうつなげていくのか防災の問題だが、地域に合った独自の防災活動をとって取り組んでいる。

### 参加者

地域が広いので、乗り合いシステムとして、毎月1回の高齢者の集まり学習には支援員を作り、支援員が善意で来てもらって公民館に集まる。

高齢者は非常に元気で、冬場に月2回ぐらい炭焼きをずっと続けている。奇数月の9日には奉仕作業で、30人ぐらいで公民館やウエストン公園の整備などをする。高齢化率は非常に高くなって、42%、43%になり、高齢者が頑張る時代というキャッチフレーズで取り組んでいる。例えば、技を伝えるということで、若い世代とそのベテラン世代が一緒になってしめ縄を作る。子ども会と連携して高齢者の集まりに子どもたちも一緒に出てもらおうというような世代交流を進めていきたい。

防災では、高齢者も防災活動ができるように防災装備品を整えたいと取り組んでいる。

### 参加者

区内は、ほとんど借地、借家、社宅で成り立っている。自分の土地を持って家を建てているのは、本当にわずか。社宅自体も入居している人がだんだん、毎月減っている。社宅も区に入ってもらっているが人数が減ってきて、区の仕事は無理なので、その分は自治会でやっている。動ける人6人で割り振りしてやっているの、一斉清掃も3日かかった。

動ける人も仕事を持っているとなると、本当に限られた人で80代から90代の人を見ていなくてはならず、本当に大変。中津川が増水したときの避難も、自主的に避難してくれればいいが、なかなか言うこと聞いてくれず孤立してしまうことになる。車で行かないと回覧板も回せないようなところもある。そういう実態で、区長のなり手もないし、民生委員のなり手もない。

### 参加者

高齢の独居の方が亡くなり空き家になった。地縁関係が全くなく、伸びた草をお隣さんが善意で刈っていたが、何も手がつけられない。いろいろと頼んで探してもらっても、つながらない。屋根が抜けて危険な状態になれば行政代執行で取り壊しになるというが、その空き家は活用できない。何とか使えるうちに活用する方法はないだろうかと思う。

もう一つは、観光栗園が9月1日から10月6日まで営業するが、予約で約3500人、4000人弱が来場される。そのうちの95%以上は、県外ナンバーの車で、土日には1日に250人の県外の方がみえる。栗だけ拾って帰られる方もみえるが、何とかうまくお金を中津川に落としてもらう策はないかと、知恵を絞らないといけない。我々10人ほどのスタッフだけではなんともならない。栗きんとん発祥の地なので、今後は、リニアでお客様の流れができて観光栗園にも来るというところを取り組んでもらいたい。

観光栗園の上に市民の森というのがありますが、荒地地になっているので、もう少し観光化して、雇用も創出できるよう、ぜひ検討していただけたら有難い。

### 市長

本当にものすごく前向きに地域のことを考えていただいて、取り組んでいただけることに感謝を申し上げます。今日いただいたような、ご意見、取り組みについて、こうして話を聞くこと、こういう場が私も市の職員にとっても、非常に大切だと思っている。これをどう生かしていくか、南地区だけではなく全市的に抱えている悩みは共通しているので、そこを、一緒になって考えていきたい。これをやればいいという特効薬みたいなものがないので、皆さんから意見を聞きながら、知恵を借りながら、全国でうまくやっているところも参考にしながら、なにかもう1歩踏み出して取り組んでみる動きをしていかなければと思っている

市としてできることは限られてくるかもしれないが、地域の区長さんはじめ地域の皆さんと一緒に何とかして地域を盛り上げていきたい。市役所として変えていけるところから、また取り組んでいきたいと思う。またこういう場を作っていただいてもいいし、気軽に市役所に来ていただいてもいいので、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

今日は貴重な時間をありがとうございました。